

1 題材名 「色の不思議」～なぜその色を選ぶのか？～

2 題材のねらい

本題材は、中学校第一学年の美術科において既習している色彩の学習や知識をもとに展開していく。生徒たちは、これまで色彩の学習において、色相環をはじめとした色の三属性（色相・明度・彩度）や、表現感情・固有感情を用いた色の使い方によって果たすことのできる効果や色の使い分けについてなど、主に色彩の知識的側面を中心として学んでいる。美術科における色彩の学習のねらいには、色彩の知識を理解することを通して、生徒自身が抱く思いや伝えたいことを表現することや、作品などから作者の思いを読み取るために必要であるということが根底としてある。従って、中学校第一学年で扱う色彩の学習は、表現の活動及び鑑賞の活動を主とした美術科におけるすべての学びの基盤になるものであると言える。

しかし、生徒たちが作品制作において色彩を扱う中では、単に好みの色であるという理由であったり、生徒自身が扱いやすいと考える色だということが理由であったりと、色彩に対する思考が狭い範囲で留まってしまっている姿が多く見られる。そこで本題材では、これまで生徒たちが美術科において制作した作品の中で扱われた色彩や、日常生活において使用しているものの色などを取り上げ、それらの色が生徒それぞれにとって何をもとにして決定されたのか、色彩の知識を踏まえた上でその考えや経験に向き合いながら、決まりのないものに対する考えを個々に紐解く活動を行う。この活動を通して、美術科をはじめとした表現や、創作の活動の中で色を扱う場面において、自分なりの根拠や深い思考を持って選択できる力を育むことをねらいとしている。また、色彩を扱う上での考えを相互に発表し合う活動を併せて行うことで、生徒たち同士の多様性の尊重にもつなげることをねらいとしている。このことで、特に作品の鑑賞の場などにおいて、お互いの作品の思いに対して深く読み取ることができる力を培うことにもつながると考えている。

生徒たちはこれまで、色彩の知識について興味を持ち、理解は示しているものの、現段階ではその知識が表現活動及び鑑賞活動に直接的な影響を与えるまでになれていないのも現実であると言える。美術の表現活動における色の選択、鑑賞活動における色に対する考えを深めることを通じ、あらゆる活動の中で、生徒自身がそれぞれの表現に託したり、作品に託されたりした思いを鑑賞することでその思いを感じ取ることができるよう、学習した知識によって豊かな情操を育てることにつなげたい。

3 「一人ひとりを支える・生かす・伸ばす」視点から

色彩の選択については、前項でも述べているように、知識を生かした選び方の工夫はあるにせよ、選択にあたっての規則など、基本的な決まりはないものである。このことにより、いわばどんな色を選択しても、それは生徒たちそれぞれの自由である。しかし、自由であるからこそ、選択幅が膨大であり、返って生徒たちの活動の足かせとなることもある。そのため、考えが深まらないまま作業的に進んでしまうことも多くある。また、鑑賞の活動においては、鑑賞者側の見た目の好みだけで作品を判断してしまうことにもつながりかねない。そこで、色彩の選択のように自由さのあるものに焦点をあて、生徒たちの考えの根拠を見つめることで、制作することや鑑賞することに対する考えを深めさせていきたい。また、生徒たちが自分の表したいと思うことに対して色彩の基本的な知識を踏まえながら効果的表現につなげていけるよう、選択的自由を広げていきたい。このことで、生徒たちが安心

して表現の活動を楽しむことのできる活動を支えることができる。そのような環境が構築されることで、美術科における生徒の思考・判断・表現の力を育み、それらを生かしながら伸ばしていくことにもつながると考える。

4 題材の展開

- 第1時 「記憶に残るシンボルマーク」作品相互鑑賞会
 第2時・3時 パブリックアート作品「3つの色+自分の夢」制作
 第4時 偏愛マップ制作（CD科延長）・相互鑑賞会
 第5時 私が選んだ色見つけ（これまで制作した作品から、使っている色について取り上げて考える）
 第6時 なぜその色を選ぶのか？（“好きな色”の選択について考える・自分の好きな色づくり）（本時）

5 本時の学習

（1）本時の目標

- ①自分自身の色彩の選択について、その根拠や思いに目を向け、色づくりを通して考える。
- ②意見交換から、色彩に対する様々な思いや考えを知り、表現の視野を広げる。

（2）本時の展開

	主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮
課題設定	・前時のおさらい。 ・授業スライドの鑑賞を通して、自分が選んだ“好きな色”について考える。	・生徒それぞれの色に対する経験や感覚の違いを取り上げながら、様々な考えがあることが面白いと思えるよう生徒自身に考えを聞く場面を設けて進める。
課題追究	・前時にワークシートへ記述したことをもとにそれぞれの“好きな色”をポスターカラーで自由につくる。（ワークシート①） ・ワークシートに沿って、“好きな色”に対する感覚や考え、根拠となる経験などを個人で考えて記述する。（ワークシート②） ・電子黒板で提示された色からイメージされるものやことを全員で考える。その後、自分の“好きな色”からイメージされるものやことを個人や学習班のメンバーと意見交換しながら考える。（ワークシート③） ・ワークシート③で考えたことをもとに、それぞれの好きな色が伝えられることや、活用できることを個人や学習班で意見交換しながら考える。（ワークシート④）	・色相環が印刷されたワークシートを配布し、これまで学習したことをヒントに色づくりさせる。 ・前時のワークシートに書いていることのみならず、色をつくってみて初めて感じたり、分かったりしたことも大切にして書くよう伝える。 ・お互いの色に対するイメージを意見交換することで様々な考えに触れられると同時に、お互いの感覚の多様さを知ることのできる時間にする。 ・自分にとっての“好きな色”の先に相手を意識した時、その色がどんなことを伝えたり、活用することができるかを、様々な意見を取り入れたり、個人で考えさせていく。
省察	・これまで記述した内容を学習班で発表し合い、考えを深める。 ・発表を聞きながら気づいたこと等記録する。 ・学習班での話し合いの内容を踏まえ、“好きな色”に対する考えを数名発表する。	・色を選択するに至った考えは基本的に肯定する姿勢を持たせ、新たな発見をする時間として聞かせる。 ・相手の感覚や、話し合う中で知ったことなど、感じたことをできる限り書くよう伝える。

（3）本時の評価

- ①自分自身の色彩の選択について向き合い、改めてその良さや生かせる点を考えようとしていたか。
- ②友達との意見交換を通し、色彩に対する様々な思いや考えから表現に対する視野を広げられたか。